うきたむ

第58号
2021.12.1

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

山形県東置賜郡高畠町大字安久津 2117　TEL 0238 － 52 － 2585
FAX 0238 － 52 － 4665
URL http://ukitamu.pupu.jp/

▲ 工事中でも開館しています

考古資料からみる地域の魅力

山形県観光文化スポーツ部文化振興・文化財活用課　山科　樹生

地域の歴史を学ぶ上で、考古資料を実際に見るなどといった「体験」は特に重要なものだと考えます。時代や地域によって文様や形が違う土器や、他地域との交流によってきた遺物を見ることは、多くの情報をもたらし、私たちが住む地域がどのような暮らしをしてきたか、どんな場所と交流してきたのかを教えてくれます。

私自身は、県外の出身になりますが、昨年度より山形県内で埋蔵文化財関係の仕事をさせて頂いています。その仕事の中で、多くの考古資料に関わっており、日々山形の歴史や魅力を感じております。

中々日常では関わりあう機会がない考古資料ですが、置賜の遺物だけではなく、山形県指定有形文化財「お花山古墳群出土品」（山形市出土）等、県内出土の多くの考古資料が収蔵されている、この考古資料館は、まさに県内の歴史を感じるのに最適な博物館だと考えます。

山形県に最近移住されてきた方も、長年県内で過ごされてきた方も、是非当館へ足をお運びください。ご自身が日々を過ごされている地域がどのような歴史を辿ってきているのか、きっと展示されている考古資料が教えてくれます。その過程で地域の魅力を発見、若しくは、再発見していただけると思います。

また、考古資料館にご来館された後には、展示されている遺物が出土した遺跡に行かれることもお勧めいたします。現在は、道路などの開発によって、当時の状況と異なる場所も数多いですが、周りの環境を見渡せば、どのような場所に当時の人たちが生活していたのか想像が膨らむことでしょう。

地域の歴史を学ぶ場、そして地域の魅力を発見する場として、考古資料館をご活用いただければと思います。

企画展記念講演会

「近世城郭と石垣」

令和3年11月14日（日）

企画展記念講演会は北野博司氏の「近世城郭と石垣」と題する演題で開催されました。

講演ではつぎのような構成でお話しをいただきました。一．空前のお城ブーム　二．近世城郭の成立―石垣・瓦・礎石建物　三．石垣の魅力（1．歴史の証拠2．構造・機能 3．形態・意匠 4．技術・機能 5．思想・信仰）です。

まず、日本一〇〇名城の選定や、テレビ番組での城のランク付け、旅行サイトでも全国各地の城が取り上げられ、「御城印集め」・「山城ハイカー、城ガール」などの言葉も生まれ、各城郭でコスプレ撮影会が行われ、イケメンの武将隊が結成されるとともに、専門家顔負けの城郭ライターも活躍する時代となっているということでした。

中世の城は文字通り土から成っており、堀、土塁、切岸、柵で区切られた中に茅・板葺きの掘立柱建物跡が建てられた軍事拠点としての性格が強かったのですが、織豊政権後は高石垣・礎石で瓦葺きの天守や櫓をもつ石の城に変わり政治性や儀礼的性格をもつ近世城郭に変貌したとのことです。前者の代表として山城と居館から成る特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡が例として示され、後者に変わっていく姿を信長の清洲城から小牧城、岐阜城、安土城で例を示されました。

つぎに石垣の魅力では歴史の証拠として、元和・寛永期の大坂城の石垣普請について古文書・古絵図、今に残る石垣の観察から、公儀普請の実態を読み解くことができるとのことでした。

構造と機能では石垣の発掘調査によって、制震と排水のため、背面地盤、栗石による裏込め、築石の三層からなる柔構造となっていたことが裏付けられたとのことです。東日本大震災では小峰城の現代の練積み工法で復原された石垣部分が倒壊し、熊本地震でも練積み工法の石垣が倒壊したとのことです。丸亀城の石垣が西日本豪雨で崩壊した事実もあり、災害での石垣の倒・崩壊を防ぐと共に、それから人命を守るための石垣保全の技術開発が課題となっているとのことでした。

形態と意匠では野面積み、打込ハギ、切込ハギなど石の加工度と積み方の組み合わせで石垣が分類され、時代や、場、材料によって使い分けがあったということでした。

石垣作りの技術・技能では各地に残る痕跡から石切場から普請丁場における石積みまでの工程を詳しく説明していただきました。そして、石切場に残された痕跡から石を割り出す技術や、石工の作業単位なども読み取れるということでした。

▲企画展記念講演会　北野 博司 氏

また、石垣の観察で巨石からは権力と威信が、石垣に石塔や石仏が利用されていることから宗教・精神、陰陽思想等が読み取れ、庭園石垣からは芸術を感じることができるということでした。

最後に、歴史研究の対象、美の対象、写真の被写体、癒し、憩いの場として石垣の価値を楽しんでいただきたいということで講演を締めくくられました。

なお、企画展講演会のビデオを、当館ホームページで公開していますので御覧ください。

うきたむ学講座

今年度は感染症拡大防止の観点から中止させていただきます。ご理解の程よろしくお願いいたします。

第二十三期 考古学セミナー

令和3年9月26日／10月3日／10月17日（日）

今期は、「発掘調査でわかった山形県内の近世城郭と出土遺物」と題して全三回開講し、企画展をより深く理解する機会を設けました。以下に内容をご紹介します。

「米沢城跡の発掘調査と出土遺物」

菊地 政信 氏（米沢市教育委員会）

菊地氏からは、米沢城について発掘当時の様子や、遺構等について詳細をお話し頂きました。発掘調査の結果、米沢城は二の丸及び三の丸は上杉氏入部以降に整備されたようですが、本丸は長井氏の時代から営まれていたことが分かりました。

「舘山城跡の発掘調査と出土遺物」

佐藤 公保 氏（米沢市教育委員会）

佐藤氏からは舘山城跡について、出土品だけではなく、文献資料に当時の舘山城がどのように描かれているのか等、豊富な資料を基に詳細を解説していただきました。

近年の発掘調査により、舘山城は上杉氏入部以降も整備が行われていたことが判明し、また、「松並（まつなん）土手」が、伊達氏時代後半に造営された土塁の一部であることが分かっています。

「山形城跡の発掘調査と出土遺物」

齋藤 仁 氏（山形市）

山形城については、齋藤氏にお話しを頂きました。現在の山形城跡（霞城公園）は、江戸時代前期の鳥居氏時代を元に復元事業が進んでいます。山形城が一番大きかったのは、五十七万石の石高を有していた最上氏の時代で、三の丸まで含めると、日本でも有数の広さを誇る城でした。同時期には、京都の聚楽第や伏見城、大坂城の最上邸跡から、山形城跡出土のものと同形の山紋金箔軒丸瓦が発見されています。

「鶴ヶ岡城跡の発掘調査と出土遺物」

菅原 哲文 氏（（公財）山形県埋蔵文化財センター）

菅原氏からは、鶴岡市の鶴ヶ岡城跡について、歴史的背景と発掘調査の両方の視点からお話しを頂きました。

大宝寺城時代の遺構は、室町時代から安土桃山時代のものが見つかっています。また、二の丸に相当する部分の発掘調査では、絵図面に描かれていない建物跡等が確認され、それらは最上氏時代のものである可能性が高いことが分かりました。陶磁器類も大量に出土しました。

「亀ヶ崎城跡の発掘調査と出土遺物」

髙桑 登 氏（（公財）千葉県教育振興財団）

髙桑氏からは、酒田市の亀ヶ崎城跡についてお話していただきました。

発掘調査では、十六世紀前半から十七世紀初頭にかけての遺物が出土しました。特徴的な遺物として、荷札木簡が出土しており、贈答が行われていたことを伺わせる木簡、茶器に関連する木簡等があります。また、慶長出羽合戦の頃のものも見つかっており、刀や鉄砲玉などの武器の調達が行われていた様子がわかります。

絶賛頒布中！「山形県の近世城郭と出土品」

こちらは今年度の第二十九回企画展「山形県の近世城郭と出土品」の展示図録です。

これまでに発掘調査等が行われている県内の代表的な六つの近世城郭を、出土品から見ていきます。

展示遺物を全点収録。詳細は、当館までお問い合わせください。

目次

第一章　舘山城
第二章　米沢城
第三章　山形城
第四章　新庄城
第五章　鶴ヶ岡城
第六章　亀ヶ崎城

頒布価格 1,500 円

置賜史跡めぐり（52）

岩部山三十三観音

南陽市川樋　●江戸時代　天保年間

南陽市の北東に位置する中川地区川樋には、標高５００ｍほどの岩部山があります。現在は、その下を国道１３号線の岩部山トンネルが通っています。

岩部山三十三観音は、この岩部山の南面の岩に彫られた、三十三体の観音像（磨崖仏）です。磨崖仏とは、自然の巨石や岸壁に彫刻した仏像（石仏）のことですが、岩部山三十三観音は、一番から三十三番まで様々な観音像が彫られています。

この観音像が彫られる発端となった出来事は、天保年間の全国的に起こった大飢饉です。一八八三年春から水不足、冷害、大雨などにより、特に東北地方は大凶作に見舞われました。病人や餓死者が多数出て、百姓一揆や打ちこわしも多発するなど大変な惨状でした。

この惨状を見た川樋松林寺の金毛和尚は、凶作のために荒んだ人々の心、乱れた世の中を救うには、観音菩薩にすがるしか方策はないと考え、石工清蔵に依頼し、四国三十三カ所の巡礼時に写した像を元に、岩部山の岩に三年をかけて三十三体の観音像を刻ませました。本磨崖仏は、三十三体そろっていて、岩部山の岩肌に合わせて彫刻されています。

千手観音、如意輪観音、聖観音など、一部経年による痛みが激しいものもありますが、それぞれが、おだやかで慈悲深い顔立ちで満ちています。

岩部山には、天狗岩、硯岩、眺岩、屏風岩、立岩などの名前がついた奇岩もあり、トレッキングコースとしても楽しめます。

岩部山三十三観音は、一九八三年四月十五日に南陽市指定文化財（史跡）に指定されました。

▲ 三十三番 十一面観世音菩薩

▲ 三十一番 千手観世音菩薩

▲ 霊場入口

我が館の展示品（46）

尖底土器

縄文時代早期　●米沢市　清水北Ｃ遺跡

清水北Ｃ遺跡は米沢市の旧八幡原飛行場および、のちの八幡原競馬場の跡地にあたる。

尖底土器は読んで字の如く、底の部分が尖った土器で、縄文時代早期に多く見られる土器である。

口縁部付近は貝殻文を主体とし、波状口縁部にそって表裏面に一条、さらに一条の貝殻文が施されている。胴部から下半部は無文で、器形はなだらかな波状口縁で、幾分内曲する口縁部が特徴で、そのまま湾曲する傾向を有しながら底部へ向かっている。内曲する器形、貝殻文の特徴からして東北南半の大寺Ⅱ式に併行するものであろう。

八幡原は扇状地末端特有の湧水に恵まれ、幾つもの清水となって流れ、八幡原一帯が人々の居住に適していたことが窺われる。

▲ 清水北Ｃ遺跡出土　尖底土器